

磐梯山登山道の状況

【目的】

磐梯山は磐梯朝日国立公園内にあり、深田久弥氏の日本百名山にも数えられ、日本ジオパークにも認定されている。また民謡に詠われていることもあって極めて有名である。今年はコロナ禍で少なかったものの、例年訪れる登山愛好者はもとより、学校登山や百名山ツアーなど全国から多くの登山者が訪れる。

一方、転倒や滑落などによるケガ、道迷いなどの遭難者が後を絶たない。このようなことが起きないように、危険箇所の除去、登山道の整備、道標や看板の設置が必要である。また、磐梯山の固有種・バンダイクワガタをはじめとする貴重な高山植物の保護及び外来種・オオハンゴンソウやコウリントンポポの駆除、噴火が残してくれた地形の変化等の監視も重要な課題であると思う。

今年度は、登山道の状況に的を絞って調査したのでここに報告する。

【調査日】

6月 5日	赤埴林道コース	6月 8日	渋谷コース	7月 10日	八方台コース
7月 17日	翁島コース	7月 27日	銅沼・火口	8月 34日	川上コース
9月 3日	赤埴林道コース	9月 15日	猪苗代コース	10月 13日	裏磐梯コース

【内容】

調査の内容は登山道の状況、すなわち各コース毎に登山道としての状態（歩きやすさ・危険個所の有無・道標の状態・他）は以下の通りですが、具体的な内容については4ページ以降に記載しています。

No. は写真と説明。

1. 登山道

(1) 八方台コース	No. 1 ~ 11
(2) 翁島コース	No. 1 ~ 15
(3) 猪苗代コース	No. 1 ~ 8
(4) 渋谷コース	No. 1 ~ 7
(5) 川上コース	No. 1 ~ 12 (川上登山口～裏磐梯コース分岐間)
(6) 火口から上	No. 1 ~ 7
(7) 裏磐梯コース	No. 1 ~ 4 (裏磐梯登山口～銅沼～中ノ湯跡間)

2. 道標・看板の状態

No. 1 ~ 7

3. 自然保護

No. 1 ~ 4 (お花畑の踏み込み跡)

4. 火口の状態

No. 1 ~ 4 (樹木の繁茂など)

5. その他

No. 1 ~ 3 (携帯トイレブース、山頂)

【結果・考察】

1. 登山道

(1) 八方台コース

標高約 1200mの登山口は広い駐車場とトイレがあり、比較的短時間で登ることができることから、磐梯山の登山者の 70～80%が利用するようである。

- ①. 登山口からすぐのぬかるみに木道ができたものの、中ノ湯跡の前後はまだ改善されていない。
- ②. 中ノ湯跡へは申し訳程度の立入禁止のロープがあるが説得力がない。しっかりしたロープとガス注意・立入禁止の看板が必要であると思う。
- ③. 展望台から先のトラバース箇所は年々崩れて滑落の危険があるので改善（幅を広げる）が望まれる。

(2) 翁島コース

このコースは、スキー場上から急登で足場もよくないために学校登山にはリスクがあって利用できない。展望のよいコースなので惜しい。整備を望む。

- ①. スキー場管理道と登山道との接点の道標が不足である（間違えた人を何人も注意した）。
- ②. ロープのある岩は身体が振られ、上部は岩を横に伝うので危険。迂回か梯子を検討してほしい。
- ③. 天狗岩の直下は岩場でルートが分かりにくい上に危険でもある。ロープがあるとよい。
- ④. 磐梯修験の遙拝所跡、賽の河原、四合目、天狗岩の表示がほしい。
- ⑤. スキー場上から山頂まで急登が続く。特に急な箇所にはロープの設置を望む。

(3) 猪苗代コース

皇族方が登られるなど古いコースだが、スキー場ができてから天の庭までのルートが変わってしまった。皇族方が馬を降りた「お馬返し」はコースから外れているのが残念である。

- ①. スキー場内のルートが管理道とゲレンデの直登できつく且つ面白みに欠ける。ゲレンデの急な下りはきつい。昔に近い登りやすいコースに変えられないか。
- ②. 鏡沼が、水が抜けて（漏れて）半分以下になってしまった。
- ③. 沼の平の 3ヶ所の橋がお粗末。

(4) 渋谷コース

このコースは入る人が最も少ない。以前は林道終点まで車が入ったが現在はスキー場管理道として進入禁止になっている。また町としては刈払いのみの管理なので歩きにくい箇所が多々ある。沼の平の高山植物と磐梯山の展望はすばらしい。この沼の平で猪苗代コースと合流する。

- ①. スキー場道及び林道が長く、草刈りはするがすぐに伸びて時期によっては草の繁茂で歩きにくい。
- ②. 草刈り以外は登山道の修理をしてないのでぬかるみや足元が不安定な箇所が多くて歩きにくい。
- ③. 道標が少ない。

(5) 川上コース（川上登山口～裏磐梯コース合流点間）

川上温泉の上と下から登山道があったが、今は上のみとなった。途中の湯沼は東日本大震災で山が崩れて埋まってしまって面影がない。訪れる人が少ないコースで 渋谷コース同様草刈りはするがすぐに繁茂してしまう。

- ①. 登山口からすぐに、中の沢上流の砂防ダムのための道路ができて登山道と交錯しているので要注意である。
- ②. 草刈り以外は登山道の修理はしてないので足元が不安定で歩きにくい。
- ③. 裏磐梯コースとの合流点の下、登山道が流されて非常に分かりにくく、灌木が繁茂して歩いて歩きにくい。赤布で対処している。
- ④. 道標が少ない。

(6) 火口から上（川上コースと裏磐梯コースの合流点から上）

- ①. 火口壁の急登の階段が壊れてきているので登りにくい。
- ②. 火口縁の稜線はバンダイクワガタが多く見られるが、外来種のコウリントンポポが繁殖している。

(7) 裏磐梯コース（登山口～銅沼～中ノ湯跡間）

往きに火口経由をとり、復路に八方台コースの途中の中ノ湯跡分岐から銅沼経由をとる登山者を多く見られるようになった。

- ①. 中ノ湯跡分岐からの急な下りは要注意である。また下った先の湿地帯はいつも道が水に浸り、ぬかるみもある。
- ②. 銅沼からスキー場へ出る途中は数ヶ所にわたってぬかるんでいる。

2. 道標・看板の状態

- (1) 磐梯山は道標が少ない。中でも渋谷、川上コースは少なく、赤布をつけて目印している。他コースも含めて現存している道標が熊に壊されているのが多い。
- (2) 道標と看板を、分岐点や注意、危険個所など必要箇所を明確にして漏れなく設置すべきである。

3. 自然保護

- (1) お花畑への立入りの跡が数箇所見られる。立入り禁止は木柱が地面に横に設置されているがロープを併用した方がよいと思われる。なお、立ち入るのは火口 の景観が目的と思われるので1ヶ所を開放してはどうだろうか。
- (2) コウリントンポポの繁茂が著しい。

4. 火口の状態

- (1) 川上コースと裏磐梯コースの合流点の下の広い火口の一部が、少しの雨でも土砂で踏み跡が流れてしまう。赤布で対処しているがわかりにくいのでロープで誘導することを望む。
- (2) 荒々しい噴火の跡が魅力である。130余年経って火口にはカラムツやダケカンバ、低灌木類が広がってきている。噴火後の地形とともに植生の変化にも目を向けていかなければならないと思う。

5. その他

携帯トイレは活用されているものの、登山道や山頂周辺にはまだ跡が残る。トイレの無い登山口（翁島・猪苗代・渋谷・川上）に簡易トイレの設置が必要である。また、携帯トイレを宿泊施設に置いてもらうなどの普及策が望まれる。

【終わりに】

百名山を含む県内外の山を歩いて感じることは、全国的著名な磐梯山ながら、登山道の状態、道標等の見劣りは否めない。県や町村の意識に疑義を感じる。登山者が安心して楽しむことができる登山道への取り組みが必要である。